

組合だより

235号

2019年

8月28日

発行所 岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1

電話 086-252-1111 (代)

7168 (内線)

直通 TEL&FAX 086-252-4148

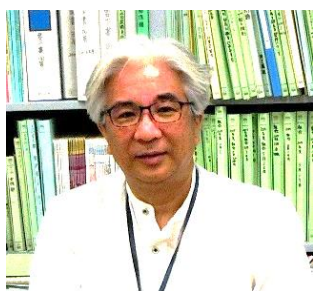
ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/>

メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

目次： 1：委員長挨拶 2：新三役紹介，役員一覧 2~3：新執行委員紹介
4：駐車場利用中止に関する要求書提出 5：全大教中四国教研集会報告，単組だより 6：旅日記



委員長あいさつ 執行委員長 大橋 功



このたび、新しい執行委員長に就任しました教育学部の大橋 功と申します。私は、すでに還暦を越えておりますが、岡山大学に着任してからまだ8年ほどしか経っておりません。そのような中、このように重責のある立場になろうとは夢にも思わぬことでした。

しかし、そんな8年間の間に、60分授業・4学期制、年俸制といった新しい制度が立て続けに導入され、国立大学改革という名目で次々飛び出す「改悪」に翻弄され「あれ？あれ？あれ？」とキョロキョロしながらも「ま、いいか・・・」と流されかけ「いやいや、ちょっと待てよ！」と立ち止まってみるなど、バタバタ、ふらふらしてまいりました。

「ボーッと生きてんじゃねえよ！」とどこかの子供にしかられるような大学人生活に陥りかけている時に、まさにパンチを喰らったような思いであります。

私は、基本的に岡山大学は、地域社会と共により良い未来の創造に向けて取り組んでいる素晴らしい大学だと思ひ、その一員であることに誇りと喜びを感じております。職場の仲間たちも、教職員共にそれぞれの立場で切磋琢磨し、また互いに協力し合い、研究活動、学生の教育、研究指導などに精力的に取り組んでいると思ひます。

しかし、その一方で、本当にこのままで良いのだろうかと思うような事も少なくありません。制度が変わる度に、何か以前よりも不便になったり、不都合なことになったりしてないでしょうか。自

分自身が置かれている立場や待遇に対して疑問を感じているものの、制度や法律に余り詳しくないので良くわからないと諦めてしまっているのでしょうか。

何のための大学改革なのか、誰のための制度改革なのか、私たちは共に考え、支え合ってより良い岡山大学のあり方を追求していかなければならないと考えています。

稲垣賢二前執行委員長も指摘するようにこの近年は『「スーパーグローバル大学」に採択されるため、性急に行った大学改革の問題点が顕在化しています。』（組合だより 232号，巻頭あいさつ）

とりわけ、60分授業・4学期制は、長年の大学教育の慣習を打破し、新しい大学教育のあり方を考える上で、ある意味FDとして少なからぬ意味を持つものとして一面評価されるものの、現実問題として、多様な学部や科目に一律に適用することや、学生や教員の負担増などの面で問題が多く、組合としてもその撤回を求めてまいりましたが、大学執行部もようやくその見直しに取り組みははじめました。

新たに導入された新年俸制を含めた給与制度の問題、軍事研究受け入れの問題、臨床系教員に対する裁量労働制導入の問題など、まだまだ課題は山積みますが、そのひとつひとつに真摯に、そして粘り強く取り組んでまいりたいと思ひます。

そのためにも、1人でも多くの岡山大学で働く人々の声を結集していくことが大切です。みなさんのさらなるご協力と、未加入の仲間たちの新たな参加を願ひ、ごあいさつとさせていただきます。



新三役紹介

岸田 研作 副委員長 (経済学部)



初めて組合の執行委員を務めることになりました。2002年に岡山大学に着任し、今年で18年目に入りました。介護に関する諸問題を経済学的な観点から研究しています。例えば、介護離職や介護労働者の不足などです。趣味はマラソンで、運動公園をほぼ毎日走っています。まだ組合の活動についてはわかっていないことが多いので、この機会を通じて、多くのことを学べたらと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。



役員一覧

執行委員長	大橋 功	教育学部	執行委員	大杉 洋	法 文 経	執行委員	南 再俊	附属学園	
副委員長	五十嵐潤美	全学教育		上森 武	工 学 部		監査委員	竹島 潤	附属学園
	稲垣 賢二	農 学 部		大西 孝	工 学 部			大杉 博幸	医 学 部
	小河 達之	医 学 部		加藤内藏進	教育学部	大竹 喜久		教育学部	
	岸田 研作	法 文 経		笠井 俊信	教育学部	味野 道信		理 学 部	
	笹倉万里子	工 学 部		高橋 卓	理 学 部	選挙管理		飯田 洋介	教育学部
	高橋裕一郎	理 学 部		長尾 暢顕	理 学 部	委 員		花谷 正	理 学 部
書記長	藤原 貴生	理 学 部		大仲 克俊	農 学 部				

新執行委員紹介

法文経単組 大杉 洋

今年度、法文経単組の委員長を務めさせていただくことになりました文学部の大杉です。引き継ぎの際に、組合員数の減少が大きな問題となっていることを痛感しました。そのような中で、これからも、できるだけ職場において職員同士が集える場を維持していきたいと思えます。皆様のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。



教育学部単組 加藤 内藏進

この度、教育学部単組の執行委員長を務めさせていただきます加藤内藏進です。多彩な季節感を育む東アジアの気象・気候やその変動の解明を軸として、文化理解教育との学際的視点も交えて研究を行っています。SDGsやESDでも、種々の『多様性の尊重』や、『異質な他者への理解』は大変重要です。また、社会の時流に乗らない「役に立たない学問」でも、自然・人間・社会の深い面白さ、仕組みの巧妙さ等に深く震撼する機会の提供を通して「世の中の人の価値観を揺さぶり直す」という意味で、持続可能な社会作りへ向けて「本当に役に立つ」ものです。従って、岡大全体の、そして教育学研究科の一番の「宝物」である「学問の多様性」を、単に目先のことに眼が眩んで切り捨ててしまわず、それぞれを更に大切に育みながら、「異論を楽しみつつ多様性を尊重する、居心地の良い職場環境」の維持へ向けて、ほんの僅かなりとも貢献出来ればと思います。どうか宜しくお願い申し上げます。

教育学部単組 笠井 俊信

今年度、教育学部単組で4度目の執行委員になり、ついに書記長を務めさせていただくことになりました。正直に申し上げれば書記長が何なのかも良く分かっていませんが、組合員にとってより「働きやすい職場」となるように知恵を絞って実際に動くことが求められているのだろうな、と漠然と考えています。組合員それぞれの「働きやすい職場」がどういう職場なのかは、これからいろいろな方々の意見を聞きながら何ができるかを考えていきたいと思っています。今年1年間、どうぞよろしく願いいたします。

理学部単組 高橋 卓



この度、理学部単組の執行委員長を務めさせていただくことになりました、理/生物学科の高橋卓と申します。岡大15年目になりますが、連合体の執行委員としては初めての参加になります。理学部では当然と言うべきか、人事凍結、60分4学期制について教員の不満が鬱積しています。先日、第1回執行委員会に出席して職場関連の諸問題に対する組合活動の取り組み、粘り強い要求を再認識するとともに、その必要性を痛感いたしました。研究、教育、職場環境の改善に少しでも貢献できるよう、微力ながら活動していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

理学部単組 長尾 暢頭

今年度、理学部単組の書記長をつとめさせていただくことになりました長尾暢頭と申します。連合体執行委員の役目は様々な要望を大学に届けることですが、それは何も大学全体の事案だけではありません。各単組の要望を持ち寄り、執行員委員会での協議を経て、大学に働きかけることも重要な役割と考えております。理学部単組と連合体の橋渡しとして微力ではありますが、少しでもお役に立てるよう努めて参ります。どうぞよろしく願いいたします。

農学部 大仲 克俊



2019年度の連合体の執行委員と農学部単組の書記長を務めさせていただくこととなりました、大仲克俊と申します。農学部で農業経営・政策に関する研究をしております。連合体の執行委員は今回が初めてです。組合活動について全く知らないことばかりですので、これを機に勉強させていただきたいと思っております。色々ご迷惑をお掛けするかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

附属学園単組 南 再俊

今年度、附属学園単組の執行委員長を務めさせていただきます、附属小学校の南再俊です。附属学園に着任して5年目。社会科教員として、社会の一員となれる子供を育てることを大切にしています。働き方を巡る改革期にこのような役目を頂き、大きな不安を抱いておりますが、私自身も社会の一員として働きやすい職場づくりに貢献していきたいと思っております。十分な働きができないままスタートを切っていますが、微力ながら精一杯役割を果たしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願い致します。

附属学園単組 竹島 潤

今年度、附属学園単組の副執行委員長を務めさせていただきます、附属中学校の竹島潤です。附属中学校勤務は2年目です。よりよい職場・教育現場を目指し、岡山県教職員組合と重複して加盟・活動させていただいております。昨年度、単組に合流させていただいて以来、職場会の開催、校内掲示板の設置、組合加入の促進、管理職への要望などに取り組んで参りました。この機会に、大学職員組合連合体への参加を通して、連帯と行動の輪を広げたく思います。聞くべきは聞き、言うべきは言い、行うべきは行い…誠意をもって取り組ませていただきたく思います。何卒一年間宜しくお願いいたします。



あなたも組合の仲間になりませんか？

主な活動：団体交渉、学長との懇談会 研究科長・各部長・病院長と交渉 講演会、学習会の開催 レクリエーション活動、コーラスなど

教職員の給与・労働条件は、労使交渉で決まります！ 一人でも多くの皆様が加入していただくことで、労使交渉における組合の発言力は大きくなり、よりよい労働条件を実現していくことができます。お申し込みは、各単組役員、もしくは組合事務所まで。メールからも、お申し込みできます。

職員組合 ODUnion@mb4.seikyuu.ne.jp

8/27 理学部2号館南の駐車場利用中止に関する質問および要求書を提出

日頃から岡山大学の運営にご尽力されていることに敬意を表します。

2019年7月16日より、総合研究棟（異分野基礎科学研究所）新営に伴う埋蔵文化財発掘調査により理学部2号館南の駐車場が利用できなくなりました。当駐車場は、約60台の車両を駐車することができ、平日は8割程度の利用がありました。今回の件で、多くの利用者に影響があることは明らかでしたが、この件について事前に送られてきた通知は7月3日送信の『埋蔵文化財発掘調査について（お知らせ）』というタイトルのメールのみで、「理学部2号館南の駐車場は利用になれませんのでご注意ください」と一文書かれているだけでした。利用者数を考慮すれば、他に使える駐車場の案内などあるべきだと考えますが、そのよう配慮は一切ありませんでした。通知が小さかったため、当日まで駐車場の利用中止に気付かなかった教職員もおり、また、7月16日当日は、駐車場を探して学内を移動するのに時間がかかり遅刻してしまった職員もいると聞いています。このような混乱は容易に予想できたと思われませんが、全く対策がとられた様子はありませんでした。

また、7月25日には、安全衛生部から『【重要】駐車禁止区域について』というタイトルのメールが届き、最近工学部前の駐車禁止区域に駐車している車が増えており、違反車両には警告書を貼り付ける旨が記されていました。これは、駐車場の利用中止に伴い駐車場所が見つからず、困り果てた教職員がやむなく駐車したものと考えられますが、その対応が警告通知のみというのは、あまりに冷たい態度なのではないかと思えます。

駐車場利用者は、駐車料金を支払って学内駐車場に駐車していますが、今回の対応を見ていると利用者数に対し十分な駐車場を確保する努力を行っているのか疑問を感じざるをえません。職員組合では、今回の件について以下の項目を質問および要求します。回答は9月24日までをお願いします。

質問項目

1. 駐車場の確保について責任を持って対応する部所はどこですか？
2. 今回の件で、駐車場を変更しなければならない教職員が利用できる駐車場が学内に十分に確保されているのか試算されたのでしょうか？ また、試算したのであればその詳細をご回答下さい。

要求項目

3. 理学部2号館南の駐車場利用中止による駐車場の不足について対応すること。

無料法律相談『ユニオン』をご利用ください



セクハラ、アカハラなどの労働環境問題、あるいは個人的な問題でも結構です。プライバシーを厳守するために、組合執行部とは別組織である人権部が相談を受け付けています。法的な相談をしたい組合員のために顧問弁護士を置き、希望者には、最初の弁護士相談を無料で受けられる「ユニオン」を設けています。法律相談は、随時、弁護士事務所で行います。相談を希望される方は、人権部までお申し込みください。

連絡先：中東靖恵 文学部准教授 内線 7426

市民のつどいお知らせ

日時：9月8日（日）10:00～17:00

場所：岡山市勤労福祉センター

講演：「憲法がないとどうなるのか？

～私たちの生活から考える～」

講師：木村草太さん（憲法学者/首都大学東京教授）

講演：10:00～12:00 分科会：13:00～17:00

前夜祭

日時：9月7日（土）1回 14:00～ 2回 17:30～

場所：さん太ホール

映画：「まなぶ～通信制中学60年の空白を超えて～」

参加費：つどい・前夜祭各800円（通し1,300円）

チケットは
組合まで
半額補助します

岡山大学職員組合加入申込書（単組役員もしくは組合事務所宛に提出してください）

岡山大学職員組合に加入します。同時に組合費の口座引き落としに同意します。



氏名： _____ 所属： _____
連絡先（内線・Eメールなど） _____ 職種： _____ 性別： 男・女

全大教中国四国教研集会報告

2019年6月22日、23日に高知県立大学で全大教中国四国教研集会が行われました。これは毎年一回、全大教に加盟する中国四国地区の大学の組合から人が集まって各大学で今問題になっていることなどを報告し議論し合う集会です。中国四国地区の9大学に加えて今年はオブザーバー参加として全大教に加盟していない1大学からも参加がありました。岡山大学からも2名が参加しました。

講演として「大学図書の除籍問題について～高知県立大学の事例をもとに～」がありました。これは新聞記事で有名になった高知県立大学図書館の図書の除籍問題についての議論でした。高知新聞で実際に図書の除籍問題についての記事を書いた記者の方と高知県立大学の中でこの問題について取り組んでいる教員とが報告を行うというものでした。質疑では、高知県立大学の教員から、記者には敬意を払うけれどもこの記事に関してはセンセーショナルに書きすぎだ、という意見が相次ぎました。図書館では複数ある本の場合、一部を残して除籍処分にするというのは通常業務として行われていることで、その場合焼却処分というのも通常の選択肢の一つであるそうです。ただ、今回の講演を聞いた限りでは高知県立大学の問題は単なる図書の除籍問題というよりは大学のガバナンスの問題の方が大きいのではないかという感想を持ちました。

そのあとは各大学から取り組みの報告があり



ました。山口大学からは大学が提案してきた大学院手当・特別貢献手当の支給基準改定に反対する運動の報告、高知大学からはハラスメント問題の処理に関する問題の報告、徳島大学からは「今後の大学運営に関する意識調査アンケート」を大学と共同で行ったことの報告、愛媛大や島根大からは非常勤職員の雇い止め問題などの報告がありました。鳥取大学からは専門型裁量労働制の前提である研究時間の5割確保を確実にするために年間授業数の上限の導入の提案がありました。また山口大学からは労働法を専門とする教員から労働組合、過半数代表者、意思決定機関との交渉・協議の重要性などの解説がありました。岡山大学からは2019年4月に導入された新年俸制の報告を行いました。

中国四国地区の大学ではそれぞれがそれぞれの事情に合わせた組合活動を行っており、お互いに有益な情報交換ができるとともに良い刺激になっています。組合員ならどなたでも参加できます。来年は鳥取で開催される予定です。ぜひ一緒に参加しましょう。

単組だより 法文経単組より

7月24日(水)にピーチユニオンにて、法文経単組のビール大会を開催しました。ビール大会は組合員の懇親を深める場ですが、これまでは学部の垣根を越えて話の輪が広がり、新しい知り合いができることが少なかったように思います。そこで今年は一計を案じ、他学部の人と多く挨拶を交わした人ほど景品が有利になるビンゴゲームを行いました。初めての試みでうまくいくか少し心配しましたが、会場のあちこちで話に輪が咲き、参加者からも好評の声を頂くことができました。私自身、これまで顔しか知らなかった方と挨拶や会話を交わし、楽しいひと時を過ごすことができました。ビール大会としては、ここ数年で一番盛り上がったのではないのでしょうか。職場をよくするには、まず同じ職場で働く仲間のことを知ることが大事です。



また、法文経では、様々な局面で学部間の共同・調整が求められます。そのため日頃から顔が見える関係を作っておくことは非常に重要だと思います。今回のビール大会がその一助になれば幸いです。(岸田研作)



ローカル線で行く！フーテン旅行記

第63回

千年の都を走るユニークな電車！（後編）

叡山電鉄 鞍馬線

工学部単組 大西孝

京都市の左京区を走る叡山電鉄。前は比叡山のふもとを走る叡山本線をご紹介しましたが、今度は鞍馬線に乗りましょう。鞍馬線は叡山本線の宝ヶ池駅から分かれて鞍馬駅へ向かいますが、電車は出町柳駅から鞍馬駅へ直通しています。八瀬比叡山口行きは1両の電車がほとんどなのに対し、鞍馬行きは2両編成が主体で、沿線に大学などもあるため乗客は多く、途中の二軒茶屋止めの電車もあります。

鞍馬行きの電車は宝ヶ池駅を出てもしばらくは住宅街を走りますが、二軒茶屋駅からは山に分け入り、急な坂道とカーブが続きます。途中の市原駅と二ノ瀬駅の間では、左右に紅葉が迫ってくる中を通り抜けます。秋には色づいた紅葉のトンネルとなり、多くの観光客で賑わうようです。鞍馬線には、大きな窓を備えた展望電車「きらら」も運行されており、車窓に広がる自然豊かな景色を楽しむことができます。終点の一つ手前にある貴船口駅で、多くの乗客が降ります。古い歴史を誇る貴船神社の最寄り駅で、周辺には川床料理を出すお店もあるようです。出町柳駅から約30分で鞍馬駅に到着すると、標高が高い（約240m）ためか、市街地より幾分涼しいように感じます。

鞍馬駅から歩くとすぐに鞍馬寺の仁王門へ着きます。ここで叡山電鉄の一日乗車券を提示すると、愛山費（拝観料）の割引を受けることができます。なお、今年の夏に発売された叡山電鉄の一日乗車券は、一風変わった団扇形のもので、鞍馬

駅周辺の飲食店でもサービスを受けられます。仁王門からはかつて清少納言や義経も通ったという九十九折の参道を徒歩で登っても良いですが、ケーブルカーに乗ることもできます。このケーブルカーは鞍馬山鋼索鉄道という国土交通省の認可を受けたもので、長さはわずか0.2kmと全国一短い鉄道です。宗教法人の鞍馬寺が運営しているため運賃は設定されておらず、鞍馬寺へ200円の寄進をして、その返礼として乗車できるという、お寺ならではのシステムです。フーテン旅行記としては、鉄道と名の付くものには乗らないといけませんので（単に筆者が足腰に自信がないだけです・・・）ケーブルカーの山門駅へ向かいます。

「牛若丸IV」と名付けられた細長い車体のケーブルカーはわずか2分で終点の多宝塔駅に到着しますが、急な傾斜を登るため、90m近い高低差を一気に稼ぎます。ケーブルカーの車窓には倒木が多く見られますが、これは2018年9月の台風21号の強風により生じたもので、鞍馬線の沿線や鞍馬寺では当時の被害が生々しく残っていました。多宝塔駅から本堂までは緩い坂道を歩いた後、最後に心臓破りの階段が待ち構えており、団扇であおぎながら石段を登り、息を切らして本堂へお参りします。帰りは参道を歩いて下りますが、途中の由岐神社は、豊臣秀頼により再建された桃山建築の割拝殿（中央に通路がある珍しい形の拝殿、重要文化財）を持つ荘厳な神社です。鞍馬駅まで戻ってくると、長い下り坂で足が笑っており、待合室のベンチで一服します。

千年の都を走る叡山電鉄、沿線住民の足として、旅行者に親しまれる観光列車として、様々な表情を見せながら、ユニークな取り組みで賑わっています。京都を訪れた際に、足を延ばすのも一興です。



鞍馬線のエース「きらら」。大きな窓ガラスを備えた車両で、一部の座席は窓に向けて固定されており、山深い沿線の風景を満喫できます。



ケーブルカーを降りてからも、しばらく坂道を歩いた後、本堂の手前できつい階段が待っています。息を切らしながらお参りします。



日本一短い鉄道路線、鞍馬寺のケーブルカー。正面には牛若丸の可愛いイラストが描かれています。乗車時間はわずか2分です。



珍しい団扇形の叡山電鉄の一日乗車券。裏面に乗車日が記入されます。沿線施設の割引やサービスも受けられ、団扇としても使える優れものです。